川柳マガジン東京10月句会
平成19年10月14日　駒込学園にて

出席者
耕平、博重、倫也、三十六、朔太郎、ゆう子
竜雄、宣子、玉枝、きみ、和子、キミ代、くんじ、品子、利江、団扇、帆波。17名。

宿題「土」植竹団扇選

「佳作」
土を出て風となる間の蝉の声　博重
まだ何かありそうなので土を掘る　耕平
取れたてよ野菜についた土の声　和子
泥の泡積みあげ虫は姿消し　帆波
沖縄の土から遺伝子を貰う　ゆう子
肉球に少し土付け猫帰る　博重
風つたう土の香りやミレーの画　宣子
土冥利生れ変って志野九谷　品子
土くれの温み帰農を噛み締める　品子
先祖にも目利きは居ぬと知る土蔵

「秀作」
土になる場所を探している枯葉　利江
UFOは土星の子分かも知れぬ　倫也
叩かれてだんだん強くなる土竜　三十六

「特選」
養分になるなら土葬して欲しい　倫也
軸　故郷の土もろともに下ろし金　団扇

没句評
「蟻の列労働の歌土の上」
土を詠んでいないのかな、蟻は詠んでいるけれど。
(土の上)という表現に一考の余地あり。
「土に耳当てて聞こえる空騒ぎ」
空騒ぎの意味が一般的ではないのでは。
「なまじある猫の額の土地で揉め」
よくある着想です。

「あの世までお供の代りする埴輪」
埴輪はお供の代わりではなくお供ですね。
「金かねカネと土に生えない物ばかり」
金かねカネとと三つに分けた表記に差があるのかどうか分からない。

「印象吟」　松橋帆波選
課題

「佳作」
徒競走転んだ昔まだ疼く　ゆう子
貼るよりも母の手勝る痛み止め　宣子
振り向いて欲しい彼女の厚化粧　玉枝
包み紙開けてみるまで分らない　倫也
大袈裟に貼っただけです湿布薬　利江
又世襲国の柱が崩れ出す　品子
残り物勿体ぶって押し付ける　倫也
傷口にそっと隠れた妻の乱　三十六
面の皮薄くて嘘が吐けません　三十六
心配をジョークに変えたレントゲン　利江

「秀作」
これしきを褒められてくる書道展　きみ
傷よりも表情しかと撮るカメラ　ゆう子
止血剤持って私の鎌を砥ぐ　和子

「特選」
諍いをするに足りない土地で揉め　きみ
軸　国会は言えない事で出来ている　帆波

印象吟は没句評としてではなく、「状況の説明・報告」「時事に寄りかかったもの」「課題がないと分りにくいもの」等に分類しました。
帆波